

研修会 見学会

■見学会

東京都北区防災センター

富士フイルム和光純薬株式会社 試薬営業本部 課長 寺澤 武

試薬八日会主催、(一社)日本試薬協会協賛の東部地区見学会を次の通り実施しました。

- 日 時：2018年10月19日(金) 15：00～16：30
- 場 所：東京都北区防災センター(東京都北区西ヶ原2-1-6) TEL：03-3940-1811
- 参加者：47名(38社)



参加者一同

2018年度の見学会は、東京都北区防災センターを訪問いたしました。同センターは、国の「防災基地モデル建設事業」の一環として、昭和59年11月に開館した地震対策の学習・地震・煙・初期消火などの訓練・体験を実施できる施設です。見学会の場所を決めた時には思いもよりませんでした。今年、猛暑に加えて6月の大阪府北部地震、7月の西日本豪雨、9月の北海道胆振東部地震と災害続きの大変な年となり、協会各社やその取引先でも少なからず影響があったのではないかと思います。

当日は、最初に防災センター 2Fの大研修室で災害ビデオの上映後に解説がありました。日本列島には約2,000の活断層があり、いつ大きな地震が発生するかわかりません。熊本県を中心とする地震は、同じ場所で震度7が2回起きる前例のない災害となり大きな被害を受けました。本震の前後に前震、余震が発生するリスクを踏まえ、大きな地震の後は速やかに避難所へ非難する必要性について学びました。また、災害発生後は電話が繋がりにくい状況になるので災害伝言ダイヤルの活用やSNSでの情報発信が非常に有効である事が参考になりました。



次は、グループに分れて体験コーナーへ移動し災害時などに役立つロープワーク（ロープの結び方）を学びました。しっかり基本を学んでおけば災害時・緊急時は命を救う道具となるのがロープであり、ロープワークです。ロープは、固く結ばばいいというものではなく、「結びやすく解けに

くい」そして「解きたいときには解きやすい」ことが基本です。このロープワークを習得しておくと、例えばマンションでの火災発生時にロープを使って階下のベランダに安全に下りられます。また、ロープが無い場合、シーツをロープ代わりに利用して避難できる事も学びました。講師が丁寧に手順を教えてくださいましたが、日常生活で繰り返し実践しないと身に付くものではないというのが実感です。ネットでも色々な結び方が配信されていますので、ぜひ皆さんも災害に備えてロープワークを学んでみてはいかがでしょうか？



次の煙体験では煙の怖さについて学ぶことができます。火災で亡くなる方の大半は火傷ではなく、煙を吸って意識不明となりガス中毒死または窒息死です。煙の「上に昇る速度」はとても早く、秒速5mと言われているそうです。階下での火事という事で油断して大事なものを持って逃げようとしたり、周りの人に合わせてその場で待機してしまったりすると、逃げ遅れてあっという間に煙に巻かれてしまう事を学びました。体験室では火災が発生し室内が煙で充満した時、どのような状況になるのかを体験できます。煙は上に昇る特性があるので姿勢を低くし、有毒ガスを吸わないように口をハンカチ等で押さえ、視界が悪いので壁伝いに出口を目指していきます。初めて宿泊する施設等では非常口を事前に確認し、避難経路を確保しておく重要性についても教えていただきました。最後に、訓練用消火器を使用した初期消火の訓練を行いました。火災が起きても小さな火のう

ちに消し止めることで、被害を最小限に食い止めます。当日は、水を充填した消火器を使って順番に「火事だー！！」と大きな声で回りに知らせた後、的に向かって放射する訓練を行いました。その際、消火器の使い方を改めて確認しました。

①消火器を火災の起きている近くの安全な場所まで運ぶ②黄色の安全ピンを引き抜く③ホースの先端部分を持って留め具から外し火元に向ける④レバーを強く握り火の根元をねらって手前からほうきで掃くように薬剤を放射する、という手順です。当たり前の様ですが粉末消火器の場合、放射時間は15秒程度で放射距離も3～5mしかありませんので、冷静かつ手順通りに行わないと効果的な消火活動ができません。また、屋外で使用する際には風上から消化する事、室内で使用する際には出口(退路)を背にして消火する事等の注意点について説明を受けました。



今回、一番体験したかった地震体験が起震装置故障の為、体験できませんでした。熊本地震、関東大震災、阪神淡路大震災等過去の大きな地震を再現し、揺れの激しさと恐ろしさが体験できるというものです。翌週の防災センターのHPには「起震装置が復旧した」とありましたので私達はタイミングが悪かったのですが、皆さんも機会があったらぜひ体験してみてください。

最後に防災センターで頂いた「大地震にそなえて」に記載されていた地震の心得10か条を紹介します。

①まず我が身の安全を守れ

(最初にすることは自分の身の安全の確保だ。



誰も助けてはくれない)

②素早く火の始末を。

(あわてず騒がず、冷静に「火を消せ」と声を掛け合い、調理器具、暖房器具などの火を確実に消す)

③戸を開けて出口を確保

(特に鉄筋コンクリートの建物はゆがむと、ドアが開かなくなることがある)

④火が出たら、すぐに消火

(「火事だ」と大声で叫び、隣近所にも協力を求め初期消火に努める)

⑤外に出る時は慌てずに

(外出中の家族にはメモを残し、お年寄りや子供の手をしっかり握って、落下物に注意しながら落ち着いて行動を)

⑥狭い路地、壁際、ガケには近づかない

(ブロック塀や自動販売機などは倒れやすい)

⑦山崩れ、がけ崩れ、津波に注意

(山間部や海岸部で地震を感じたら、直ちに避難)

⑧避難は徒歩で、荷物は最小限に

(指定された避難場所まで徒歩で避難する。必ずブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めて避難)

⑨みんなで協力して「応急救護」

(助け合ってけが人の手当てをする。お年寄りや体の不自由な人の手助けをする)

⑩正しい情報を入手し、余震を恐れない

(うわさ、流言に惑わされないように、テレビやラジオなどの情報に耳を傾ける)

試薬は、研究、実験や検査、環境分析等広範囲な分野で用いられ、科学技術の進歩、産業経済の発展、快適な生活環境の維持向上に重要な役割を果たしています。一方、使い方を誤ると重大な事故に繋がる可能性があります。災害に関する色々な理解を深め日々、細心の注意を払って試薬を取り扱わなければならないと改めて確認する意義のある研修会となりました。見学会後、「源気丸 駒込店」にて研修反省会を開催いたしました。

試薬八日会 吉澤会長のご挨拶、日本試薬協会 佐々木事務局長に乾杯のご発声を頂きました。2時間程参加者で交流を深めた後、試薬八日会 矢島副会長による締めで散会となりました。